

●一斉に御堂の畳を水拭きせりわが家に拭きしことなければども

布宮慈子

この歌の御堂は、つぎの歌がお寺の掃除当番の歌であるところから、お寺の御堂だろう。一斉に、は一人でない、当番同士ということ。家ではそんなことをしたこともないという。そんなことはしないのか。畳の部屋がないということではない。ここでは共同の作業であり、そこに心躍りもある。

後半六首は、祖母の、地獄絵のこと、仙台の七夕のこと、仙台のこと、(生きてあらば九十歳となる) みつこ(おばさん)をそれぞれ思い出したもので、明解で、なお切々とした調子なのだ。

「仙台の七夕」と祖母は言ひしかど遂に行かれずサルビア赤し

●とどしに咲く山ぼふし花数の多けれどことは形小さし

丸山弘子

山ぼふしの花数はたしかに多い。ことは形小さし、とみているのはこれもたしかな目である。そういうところに気付く生活でもある。

ひもすがら日射し受けるる百日紅小木なれど満開の花

百日紅も花数は多い。山ぼふし、藤、黄金百合、アマリリス、カサブランカときて、百日紅(さるすべり)(二首)、のそれぞれ花の歌が続いて、燕、金星ときて、人(中国人)の歌で一連は終る。いろいろな意味で距離の近遠になっているのか、とおもう。外に出て詠っている歌。

コンビニの店員名札に「ニヤン」とありやや小柄なり中国人らし

●「あざみ」(詩)

池田桂一

短信で、大病のこと、入院手術のこと、その後のことが語られている。なかで、本棚の整理中に、上京して大学三年に編入していた頃に読んでいた詩集「智恵子抄」、そこに挟みこまれていた自身楠本幸次名で書いていた詩集「あざみのうた」のメモがみつかった、という。

少しづつ場面をずらしながら、あの人の口にした花の名前、水で書くことをしたあの人の名前、煙草の煙の中にくゆらせているそれら、その煙はあざみの花の色に似るといふ。ある巡りあわせをいろいろに反芻しながら、そのことに意味があるよう。そういう時間があったことがすでに懐かしいのだ。

●暑き陽を浴びて伸びくるオカワカメ君だけ元気と声に出し言う

市川茂子

三首がオカワカメの歌。一連タイトルも「オカワカメ」。一つ前の歌に、蔓の伸びいし、とあり、物干し竿に絡みつきくる、とあるように、オカワカメは正式和名を「アカザカズラ」というツルムラサキ科のつる性植物の葉。別名「雲南百薬」とも云われ、栄養成分に富む食材でもあるようだ。命名は、茹でた状態が見た目や食感ともワカメに似ているから。

声に出してしまうということはじぶんにもあるが、独居ということでもある。そこに作者にとっては自覚的ながら可笑しさがある。君だけ元気、がいい。

早朝につみ取る庭のオカワカメ肉厚き葉は今日の一品

●花咲いて花の大きさ小さくは生れることなき泰山木の花

小野澤繁雄

二句目の「花の大きさ」のあとに「驚く」とか「やっぱり大きいなあ」等の作者の感想が隠されていると読んだ。泰山木は泰山木として、木の大小にかかわらず、白い大きい花を咲かせる。あらためて考えてみれば、自然の不思議である。「生れる」の読みは「あれる」。

桑の実のしとどに落ちているところ桑の木あれど仰ぎみるのみ

桑の実がたくさん落ちてい場所には当然、桑の木がある。「仰ぎみるのみ」とわざわざ言うのは、子どものころは桑の実を食べたけれども今は取って食べたりしないのだよ、と時間の経過を含めて表現しているからだ。「桑の」が繰り返され、理屈よりも懐かしさと寂しさがにじみ出る歌。

●熱帯夜の浅き眠りゆ目覚めしも頭痛に眩暈 いつもと違ふ

河村郁子

夏の暑い夜、浅い夢から覚めた作者は体の変調に気づく。「私の熱中症」の一連を読むと、血圧や体温を測り、自分でできることをして経過を見てから区の休日診療、消防庁救急相談センターへ電話を入れたようだ。事実を克明に歌にしているのだが、これとて簡単なことではない。臨場感があり、作者の思考回路もわかる面白い歌が並んだ。次の歌は、すべて救急相談センターの人の話したことである。

「症状が進めばすぐに救急へ、センターからの指示と伝へよ」

●満洲の記憶の景へ大西日

谷垣満壽子

作者は満洲で育ったのだったか。敗戦後に満洲から引き揚げてくる過程を語る人も少なくなつた。ぜひ、俳句や文章にして残してほしいと思う。

梅雨に入る駄弁り尽くせしクラス会

梅雨に入つて開かれたクラス会では、特に全体に報告することもない。日常のあれこれを懐かしい面々と語りに語ってお開きになつた。「駄弁る」という語を句に入れた勇氣に拍手したい。

●赤しようびん聴こえかいなの風つくる

新野祐子

アカシヨウビンは、森林に生息するカワセミの仲間。全身燃えるような赤い色をしたカワセミ類で、「火の鳥」の異名をもつそうさだ。その鳥の声が聴こえたので、腕を動かして風をつくるのだという。ある瞬間から鳥になってしまいそうな浮揚感がある。

トマトもぎ悪事を為したような手よ

作者は無農薬野菜をつくり、それを契約者に届けるのを生業としている。トマトを挽いで赤く染まった手をうまく表現した。「悪事」が強いインパクトを与えている。